

山 口 県 教 育 委 員 会 会 議

日時：令和元年5月23日 午後2時00分
場所：山口県教育庁教育委員会室

教 育 長	<p>それでは、ただいまより令和元年5月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>最初に本日の署名委員の指名を行います。</p> <p>中田委員と石本委員、よろしくお願いします。</p> <p>それでは、報告事項に入ります。</p> <p>報告事項1について、教職員課から説明をお願いします。</p>
教 職 員 課 長	<p>「令和2年度(2020年度)山口県公立学校教員採用候補者選考試験」の実施について御報告します。</p> <p>資料の2ページを御覧ください。</p> <p>今年度実施する採用試験の概要については、3月14日に実施大綱として発表したところですが、この度5月10日に、採用見込者数を含めた試験の詳細な内容を、実施要項として発表し、志願者への配布を開始しましたので、その概要を改めて御報告します。</p> <p>はじめに、1の(1)の選考区分及び志願区分(校種等)についてですが、アの一般選考からクの看護科・理療科教諭特別選考までの8つの区分で実施します。</p> <p>次の3ページ(2)の教科(科目等)及び採用見込者数についてですけれども、全体で432人程度としておりまして、昨年度の421人程度から11人の増加となっています。校種別、教科(科目等)別の内訳等については、下の表にお示ししております。</p> <p>次は4ページを御覧ください。2の志願書類受付期間は、要項発表後の5月13日から既に受付を開始しており、31日までとしています。</p> <p>3の選考試験期日につきましては、第一次試験を7月13日(土)、14日(日)の2日間、第二次試験を、8月24日(土)、25日(日)の2日間で実施することとしていますが、小学校の個人面接については、25日(日)から27日(火)までのうち指定する1日で実施します。</p> <p>4の試験会場ですが、1次試験は山口会場の県内3高校と、東京会場の「國學院大學 たまプラーザキャンパス」で実施し、二次試験は県内4高校で実施します。</p> <p>次の5ページを御覧ください。5の試験内容はお示ししております。6の結果の発表につきましては、一次は8月6日(火)、二次は10月2日(水)の午前9時としております。</p> <p>次に、7の試験の主な変更点についてですが、今年度は社会人特別選考の対象者に「青少年教育施設勤務経験者」を追加しました。</p> <p>8の志願書類の請求等については、お示ししております。</p> <p>次の6ページを御覧ください。9のその他についてです。</p> <p>実施要項発表後、5月10日から19日までの間で、お示しのお</p>

	<p>り、教員採用候補者選考試験説明会を実施しました。</p> <p>県内7会場、県外7会場の、合わせて14会場でパンフレット及び志願書類を配付し、令和2年度試験の変更点や試験内容等について周知するとともに、試験に対する心構えや教員になってからのことなどを、現職教員から語ってもらいました。</p> <p>会場ごとの参加者数は表にお示ししているとおりです。</p> <p>以上、令和2年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験の実施について御報告します。</p>
教 育 長	<p>ただいま教職員課から報告事項1について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p>
中 田 委 員	<p>4ページの選考試験の会場についてですけれど、東京会場にはこちらから出張して行かれますか？</p>
教 職 員 課 長	<p>東京会場の試験の運営につきましては、こちらから職員が赴きまして実施を致します。</p>
教 育 長	<p>他にいかがでしょうか。</p>
教 育 長	<p>それでは、報告事項1については、以上のとおりとします。</p> <p>続いて、報告事項2について、義務教育課から説明をお願いします。</p>
義務教育課長	<p>4月に実施されました「全国学力・学習状況調査」につきまして、概要を御報告いたします。</p> <p>調査問題については別途お届けしていますが、ここでは、別冊の資料を使って御説明いたします。</p> <p>まず、7ページを御覧ください。</p> <p>今年度は、4月18日（木）に、これまでと同様、小学校第6学年と中学校第3学年を対象に実施されました。実施教科は、小学校は国語、算数。中学校は国語、数学、そして英語です。</p> <p>昨年度からの変更点ですが、国語、算数・数学については、知識に関する問題、いわゆる「A問題」と、活用に関する問題、いわゆる「B問題」を一体的に問う構成で実施されました。また、新たに英語の調査が行われ、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に加え、コンピュータを使つての「話すこと」調査が実施されました。英語は3年に一度実施されることとなっています。</p> <p>全体として、学習指導要領の理念・目標・内容に基づき、前の学年までに十分身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられる内容が、各領域からバランスよく出題されています。また、国語、算数・数学において、これまでの調査における課題を踏まえた問題が、約44%出題されています。</p> <p>本県では、小・中学校合わせて428校、約2万2千人の児童生徒に調査を実施したところです。英語の「話すこと」調査における機器の不具合等が危惧されておりましたが、本県では、大きなトラブルも</p>

なく調査を終えることができました。

調査結果等につきましては、7月末頃、各教育委員会及び学校に対して文部科学省から提供される予定です。

それでは、問題の概要について御説明いたします。

まず、教科に関する調査です。

資料8ページを御覧ください。小学校国語です。

資料にお示ししているように、公衆電話について調べたことを目的に合わせて資料を用いて報告する文章を書く問題や、身近な食べ物について疑問に思ったことを調べ紹介し合うために資料を読み取る問題、町の広報誌に取り上げられていた職人を紹介するためにインタビューをする問題など、実際の学習場面や学校生活での活用を想定した問題が出題されました。

資料10ページは、小学校算数です。

2つの合同な台形で作られた図形の面積を求めるとき、示された式がどのようなことを表しているかを、言葉や数を用いて説明することができるかをみる問題が出題されました。また、資料でお示ししているように、遊園地での待ち時間を考えるという日常生活の問題解決のために、伴って変わる2つの数量を見だし、数学的に表現・処理して判断する力をみる問題が出題されました。

次は中学校国語です。12ページを御覧ください。

全国中学生新聞を読んで考える問題や、「地域と私たちとのつながり」というテーマで意見文を書く問題など、日常生活と関連付けられた問題が出題されました。お示ししているように、意見文を読み返して文章を書き加えるという設定のもと、資料を見ていない人にも分かるように書く問題など、実際の学習場面や学校生活での活用を想定した問題が出題されました。

資料14ページは、中学校数学です。

基本的な知識・技能を問う問題に加えて、与えられた表やグラフを用いて冷蔵庫の費用について考察する問題や、連続する3つの奇数の和の性質について式を使って説明する問題が出題されました。また、「データの活用」の領域では、代表値の理解を問う問題や、与えられたヒストグラムの特徴を基に説明する問題などが出題されました。

資料16ページは、中学校英語です。

「聞くこと・読むこと」においては、「留学生の英語によるメッセージ」を聞き取ったり、「社会的な話題に関する英文（食糧問題）」を読み取ったりして、自分の考えを書くなど、各技能を組み合わせる力が求められる問題が出題されました。また、「書くこと」においては、お示ししているように、学校を表す2つの「ピクトグラム（案内用図記号）」の案を比較して、どちらが良いかを理由とともに、25以上の単語でまとまりのある英文を書く力を問う問題が出題されました。

「話すこと」においては、右ページでお示ししているように、「家族紹介」に係る2人のやりとりに沿った質問を場面や状況から判断し、即興的に表現する力を問う問題など、技能統合型の発信力を重視している新学習指導要領の趣旨を踏まえた問題が出題されました。

教科に関する問題については以上でございます。

	<p>続いて、質問紙調査について、18ページを御覧ください。</p> <p>まず、児童生徒に対する調査につきましては、家庭学習などの質問の一部が削除され、道徳、特別活動、ICTに関する質問が追加されました。</p> <p>中学校においては、3年に一度の英語の実施に伴い、生徒に対する調査、学校に対する調査ともに、英語学習に関する質問が追加されました。また、部活動の取組についての質問が追加されました。</p> <p>学校に対する調査につきまして、19ページ下の方を御覧ください。</p> <p>今年度は、質問項目が整理され、小学校の設問数が大きく減っています。新学習指導要領のキーワードとなっている「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」に関連した質問や、英語科の小中連携における研修に関する質問などが追加されています。</p> <p>以上で、今年度の全国学力・学習状況調査についての報告を終わります。</p>
教 育 長	<p>ただいま義務教育課から報告事項2について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p>
石 本 委 員	<p>17ページの「話すこと」についての解答は、どうにかたちでるのでしょうか。</p>
義務教育課長	<p>「話すこと」につきましてはコンピュータを使いまして、USBのほうに一人ひとりの生徒の話した音声を録音し、それを採点者が聞いて採点するかたちでございます。</p>
石 本 委 員	<p>ひとりずつ、席に着いた状態で話すのでしょうか。</p>
義務教育課長	<p>そうですね。いわゆるコンピュータールームのようなところが多かったと思われかもしれませんが、そちらでひとりずつが画面に向かって、ヘッドセットを付けて話した音を拾って、それを採点するというかたちでございます。</p>
教 育 長	<p>イメージがつかみにくいところもありますが、全体が一斉にやるための機材がないというのはありまして、クラスごとにローテーションで行ったところもあるようです。また、隣の人の声が聞こえることも心配されましたが、大きな問題にはならなかったようです。</p>
佐 野 委 員	<p>今回、初めて英語の話す力の調査がありましたけど、実施されて、子どもたちの反応はどうだったのでしょうか。私もインターネットでどんなことをやっているのか聞いてみましたが、意外と速いスピードで英語が話されて、それを1回だけ聞いた状態で答えを言うかたちでした。子どもたちは問題なく聞き取れて答えたのでしょうか。</p>
義務教育課長	<p>全ての学校から確認できているわけではないですし、生徒さんの習熟の状態によって反応も違うと思いますけども、例えば御協力いた</p>

	いた複数の学校によりますと、思っていたより生徒が解答していた、それが正解かどうかはわかりませんが、答えられないのではと懸念していたよりは、積極的に発話をしていたとの報告を受けております。
佐野委員	それは素晴らしい。
教育長	じっとしているような感じではないと。他にありませんか？
石本委員	英語は、なぜ3年に1回なのでしょう？
義務教育課長	調査の基本設計は文部科学省のほうが致しますので、私どもがという訳ではないのですが、国語と算数・数学につきましては毎年実施して、理科につきましては3年に1回の調査。英語を加えるにあたっては中学校において3年に一度ということで設計されております。1日の中で行える調査の量にも限りがありますので、「今年は理科の年」「今年は英語の年」というようなかたちで実施をするためだと受け止めております。
教育長	英語の結果っていうのは、個々には知らされないのですか？
義務教育課長	「聞くこと」調査、「読むこと」調査、「書くこと」調査につきましては、従来からの教科と同じように平均正答率が公表されますが、「話すこと」調査につきましては今年度初めて実施すること、また、全国で機器の不具合やトラブルで十分に調査が行われない状況があるという理由で、あくまで参考として取り扱うと言われております。
教育長	学校ごとにはどうですか。
義務教育課長	学校ごとに個々の生徒がどうだったことについては返されますが、いわゆる公表というかたちとは違うと思います。
教育長	おそらく7月末に結果が出るだろうということで、良い結果が出るんじゃないかと。また結果が出たらお知らせいたします。
教育長	それでは、報告事項2については、以上のとおりとします。続いて、報告事項3について、高校教育課から説明をお願いします。
高校教育課長	それでは、「平成31年3月新規高等学校等卒業者の就職状況等」について御報告します。 議案冊子の20～21ページをお開きください。 御覧いただいている「求人・求職・就職状況」は、山口労働局から発表された3月末現在のデータを基に作成した一覧表であります。 各欄とも、下段の数字が今年3月末現在の数値であり、上段にあります（ ）内の数値が昨年3月末の数値となっております。 まず、Aの欄にあります「求人数」は、男女合わせて、6,660

人であり、昨年同期の5,804人より856人、率にして14.7%の増加をしております。

その下の欄、Bの欄の「就職希望者数」は、合計で3,162人であり、昨年同期の3,066人より96人、率にして3.1%の増加となっております。

求人数を就職希望者数で割った、いわゆる「求人倍率」は、Cの欄にありますように2.11倍となりました。

こうした状況の下、Dの欄「就職内定者数」は、合計で3,138人。1つ飛ばして、Fの欄「就職内定率」は、合計で99.2%となり、6年連続で99%台の高水準となっております。

しかしながら、ひとつ上に戻っていただくこととなりますが、Eの欄の「未内定者数」については24人、昨年度と比較して6人の増加となっており、引き続き、各公共職業安定所や山口しごとセンターなどの関係機関との連携を図りながら、就職の相談や斡旋等に努めてまいりたいと考えております。

さらに、Gの欄にあります「県内就職内定比率」については、高校生の主体的な県内就職を一層促進するため、2022年（令和4年）度までに85%以上とする目標を掲げて諸施策に取り組んでいるところですが82.3%となり、前年同期に比べ1.9ポイントの増加となっております。

こうした中、どのようにして高校生等の就職を支援するかではありますが、21ページに本年度取り組むこととしている高校生の県内就職を促進するための事業であります、「2019年度やまぐちの活力を支える高校生就職支援事業」の概要をお示ししておりますので、簡単に御説明をさせていただきます。

(1)の「県内就職ガイダンス等充実事業」では、「地域産業魅力発見セミナー」と「地域産業就職ガイダンス」を引き続き実施することとしています。

(2)の「県内就職サポーター等配置事業」におきましては、県内就職を支援する体制の強化に向けて、昨年度から配置した「県内就職促進統括マネージャー」を中心として、県内企業情報の分析と県内広域マッチングの業務を、組織的に行うこととしています。

さらに、(3)の「県内企業就職セミナー事業」におきましては、本年度から対象を高校1・2年生とその保護者にも拡充するとともに、「県内企業見学セミナー」と「県内企業就職説明会」を同日に開催することを可能とし、県内企業・県内就職の魅力や良さを、生徒には早い段階から、保護者には直接しっかりと伝えることができる取組を実施できるよう、改善を図っております。

(4)の「県内企業訪問推進事業」においては、求人開拓や応募前職場見学はもとより、職場定着指導等のため、教員等の企業訪問を実施することとしております。

(5)の「県内就職促進協議会」につきましては、より多くの企業と学校が情報交換していただくため、I期の地区別に加えまして、地区別の協議会に参加できなかった企業を対象として、II期の県東部、県中部、県西部で開催することとしております。

最後になりますけれども、平成29年度から立ち上げております「高

	<p>校生県内就職促進プロジェクトチーム」において、他部局と連携いたしまして、高校生の県内就職を総合的かつ一体的な促進に努めているところですが、ただいま御説明した様々な事業展開も行う中で、今年度も引き続き、就職を希望する全ての生徒の進路実現及び高校生の県内就職に向けた取組を学校・関係機関と連携しながら積極的に推進してまいります。</p> <p>以上で、御報告を終わります。</p>
教 育 長	<p>ただいま高校教育課から報告事項3について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p>
宮 部 委 員	<p>いろんな努力をされた中で、99.2%のデータは良いのではないかと思います。Eの未内定者は本当に働く気がある人の話でしょうか？人が本当に足らなくて、特に地元の中小企業が業種によって全く入って来ない状態が数年続いているのですが、いかがでしょうか。</p>
高校教育課長	<p>3月末時点で、24名となっておりますが、その後、学校等に聞き取りしたところ、現在は17人まで減っています。残っている未内定者がどういう状況かについてですけれども、確かに進路の希望が未定という生徒も含まれていますし、自分が希望する職種とのマッチングが上手くいっていない生徒もいます。引き続き各公共職業安定所やしごとセンターの関係者と学校が連携して、しっかりと就職内定に向けて努めていきたいと考えています。</p>
宮 部 委 員	<p>いつもの話ですが、定着率ですね。離職率をいかに下げられるか。「とりあえず99%だからいいじゃないか」ではなくて、そこまで含めて、子どもたちや親に対して理解を得ながら進めていけたらと思います。</p>
教 育 長	<p>お話があったとおり、求人開拓で企業訪問をしておりますけど、特に中小企業は厳しい状況が続いております。できるだけ県内に残ってほしいと思っていますけど、なかなか子どもの数も少なく、十分御希望に答えられない状況が続いているということです。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
教 育 長	<p>それでは、報告事項3については、以上のとおりとします。</p>
教 育 長	<p>次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
教育政策課長	<p>次回の教育委員会会議は、6月12日（水）午後2時からの予定でございます。よろしく申し上げます。</p>